

平成 28 年度

## 国立大学法人 電気通信大学のインターンシップについて

### 1. インターンシップの教育的効果と企業・団体様にとっての効用

企業・団体様の多大なるご理解とご支援を得て実施することができているインターンシップは、企業現場での体験を通じて学生を社会で幅広く活躍できる人材として育成する機会であり、本学におけるキャリア教育の大切な教育機会と位置付けております。

インターンシップを通して学生は、企業の現場で現物に触れながら、企業とは何か、働くこととは何か、その意義は何かなどを肌で感じ、大学内では学べない多くのことを経験します。インターンシップという貴重な体験をした学生は一回り大きくなって大学に戻り、学業に一層励み、自身のキャリアアップ向上に意欲的、かつ前向きな姿勢で臨みます。さらに、学生は、実際の体験を基に業界・職種を理解し納得して就職活動等をしますので、就職の際のミスマッチが低減する大きな効果があります。また学生が行う学内でのインターンシップの成果発表会は、企業・団体様のイメージアップや事業内容、研究内容を他の学生にも広める機会ともなります。学生を受入れた企業・団体様からはインターンシップ生を受け入れることで、社内が活性化することや、指導下さる若い技術者のリーダーシップ育成に役立つなど、良い効果があったとの感想もいただいております。このようにインターンシップ学生の受け入れは、企業・団体様のイメージの向上や社内教育、研修意識の向上などにも役立っていると考えております。

### 2. 本学のインターンシップの基本的な考え方

本学のインターンシップは、キャリア実践教育の一環として、企業・団体様のご協力を得て行う就業体験(実習)で、主に夏季休暇を利用し下記のような趣旨で実施しております。

- ① 実社会で必要な知識や技術、職場・通勤での安全性、勤労の尊さ、コミュニケーションの重要性などを体験する。
- ② 自己の職業適性や将来設計について深く考える契機とし、近く始まる就職活動に向けた職業意識を高め、あるいは更なる勉学の重要性を認識し、今後の勉学や進路決定の一助とする。
- ③ 研究・開発・製造・生産・流通・販売・サービスなどの各分野で、常にイノベティブな活動が要望されていることを理解すると共に、社会が必要とするニーズに柔軟に対応できる意思と能力を身につける。
- ④ チームワークの重要性や職業人としての自立の在り方を考え、将来の職業人としての心構えと抱負を養う。

**学部インターンシップ**は、3年次の主に夏季休暇内で国内の企業・団体様で行う「インターンシップ」と、海外の企業・団体様で行う「海外インターンシップ」があります。実習期間は、少なくとも原則90時間以上の就業体験期間をお願いいたしますが教育効果がより上がる3～4週間程度を希望しています。

**大学院インターンシップ**は、研究・技術開発寄りの実習が好ましく、主に1年次の夏季休暇内で学部と同様の原則90時間以上(できれば3～4週間以上)の国内、海外インターンシップがあります。これらに加え、原則180時間以上(できれば1ヶ月以上)の長期国内インターンシップと長期海外インターンシップがあります。

このように、一定期間、企業・団体様の現場でインターンシップを修了した学生には報告書、企業・団体様発行の修了書等を提案して単位を与えています。

### 3. インターンシップにおける賠償責任と企業機密保持

学生は実習期間中の災害、事故の発生に備え「学生教育災害障害保険(学研災)及び学研災付帯賠償責任保険」に加入してインターンシップを開始致します。学生は実習期間中、就業規則を遵守し、知り得た企業秘密等を第三者に漏洩しないよう記した誓約書を企業・団体様に提出致します。企業様独自作成の機密保持誓約書の提出のケースもあります。

#### 4. インターンシップ実施要領

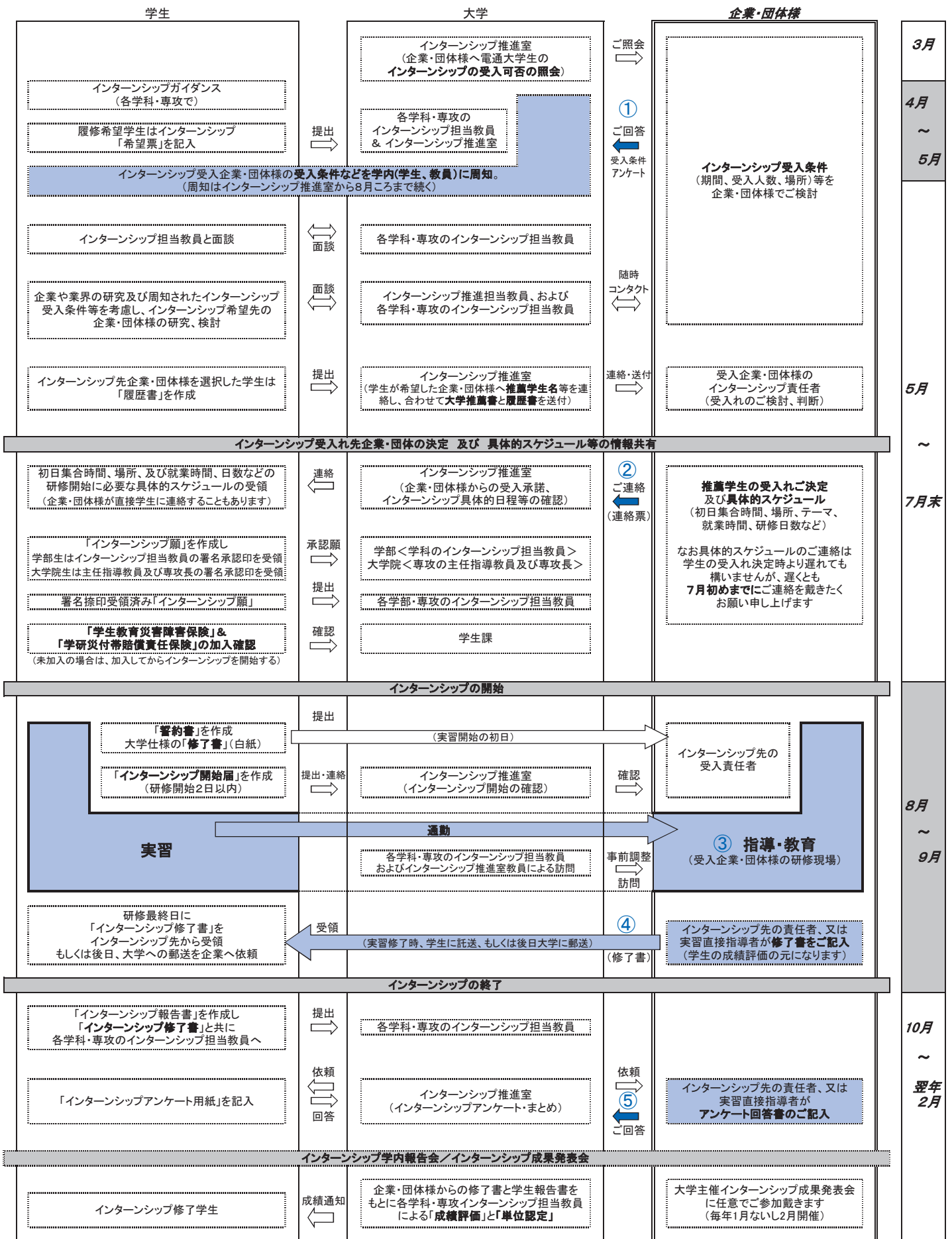
	項目	学部	大学院
1	教育戴く内容	必ずしも研究・開発業務でなくても良いのですが、主として理工系業務を希望します	主として理工系業務。できれば研究・開発業務の体験を希望します
2	実習・教育戴く学生	学部3年次生	主に大学院博士前期課程1年次生。後期課程生もいる
3	実習時期・期間	主に夏季休暇期間中の原則90時間以上。長期インターンシップは原則180時間以上。冬季、春季要相談	
4	企業・団体様の受入条件、要求など	「 <b>インターンシップ受入条件アンケート</b> 」に企業・団体様の学生受入条件、希望、日程などを回答戴きます。この内容は学内限定で学生、教員に周知し、学生希望と企業・団体様とのマッチングに活用します	
5	実習先の選定と学生の推薦方法	各学科・専攻のインターンシップ担当教員及びインターンシップ推進室の教員が企業・団体様の受入条件、学生の希望分野、職種、通勤時間等について、インターンシップを希望する学生と面談を重ね、マッチングの取れた希望学生を企業・団体様へ、履歴書、大学推薦書と共に推薦をします	
6	学生の受入決定	推薦した学生の履歴書、大学の推薦書を基に、企業・団体様と大学で調整し決定します。企業・団体様が実習配属先部門を決定するために必要により面談の機会を設定して戴くケースもあります	
7	服務規則遵守	学生はインターンシップ期間中、実習先の諸規定、監督者、指導者等の指示に従い遵守します	
8	報酬、交通費など	報酬はインターンシップの趣旨から原則支給を戴いておりません。交通費と昼食代は、誠に恐縮ですが実習先様からの支給をお願いしておりますが、報酬を含めて企業・団体様の社内規定が優先です	
9	宿舎	自宅通勤不可能な場合、実習先様で宿舎を提供して戴くよう、お願いしています	
10	学生の指導委嘱	大学は受入企業・団体様に指導者を選任して戴き、指導・教育の委嘱をします 授業科目の1つとして学生の教育をお願いしています。なお学生の成績査定は不要です	
11	実習の総括と報告	インターンシップ終了時、企業の指導者の方に、学生が実習総括をする場(プレゼンテーションの場等)を設けて戴きたくお願い申し上げます。学生はインターンシップ報告書を実習先、大学に提出します	
12	企業・団体様の学生評価と修了認定	インターンシップ終了後、企業・団体様の指導者の方に学生の実習評価をする「 <b>修了書</b> 」を記載して戴き、修了書が大学に届くことでインターンシップの修了を認定します。	
13	学生の成績評価と単位付与	企業・団体様から提出された「修了書」、学生作成の「報告書」及び面談などを総合的に大学が勘案して合格者に単位を付与します。付与する単位数は学内規定によります	

#### 5. 実習にあたって企業・団体様と交換する書類など

1	<b>インターンシップ受入条件アンケート</b> (企業・団体様から大学へ)	分かる範囲で受入テーマ、時期、受入部署、日程等の受入れ条件を大学にご連絡を戴くアンケートです。開示戴いた内容は大学内のみで使用し教員、学生に周知します
2	インターンシップに関する <b>連絡票</b> (同上)	確定した実習スケジュール、実習先、実習テーマ等を大学へ連絡戴きます
3	<b>修了書</b> (企業・団体様から大学へ)	企業・団体様の指導者の方に、学生の勤務状況、実習内容、成果、助言事項等の評価を記述して戴きます。様式は大学で用意しますが、企業・団体様の様式があればそれを用いても結構です。修了書は実習最終日に学生に託するか、または大学へ送付を御願い致します
4	<b>推薦書</b> (大学から企業・団体様へ)	推薦学生の受入れ依頼と学生の所属学科/専攻、連絡先、住所などを記載
5	<b>履歴書</b> (大学から企業・団体様へ)	推薦学生の学歴(高校卒業以降)、実習志望動機などを記載
6	<b>誓約書</b> (学生から企業・団体様へ)	実習中に学生は企業・団体様の服務規程に従い、学生が知りえた企業・団体様の機密を第三者に漏洩しない誓約です。大学の様式がありますが、企業・団体様の様式があればそれを優先致します

6. インターンシップ履修プログラム

企業・団体様から大学へのアクションは主に①から⑤です。このプログラムに沿って電通大インターンシップ生の受入れをお願い申し上げます。



## 7. インターンシップ対応組織と担当部署

共通教育部キャリア教育部会の傘下に「インターンシップ実行委員会」を置き、全学の連携と調整を行っています。委員会構成はキャリア教育部会長、学部各学科・大学院各専攻のインターンシップ担当教員、及びインターンシップ推進室の教員です。各学科・専攻のインターンシップ担当教員は学生対応、企業訪問、学生の成績評価などを行います。インターンシップ推進室は全学のインターンシップ総括窓口として企業・団体様に対応致します。

## 8. インターンシップを実施する学部各学科・大学院各専攻、およびインターンシップ担当教員

情報理工学部(4学科)			
1	総合情報学科	西 康晴 講師	042-443-5252
2	情報・通信工学科	笠井 裕之 准教授	5670
		中野 圭介 准教授	5321
3	知能機械工学科	Matuttis Hans-Georg 准教授	5401
4	先進理工学科	志賀 智一 准教授	5178
		松林 和幸 准教授	5436
情報理工学研究科(4専攻)			
1	情報学専攻	山口 和彦 准教授	5307
2	情報・ネットワーク工学専攻	笠井 裕之 准教授	5670
		中野 圭介 准教授	5321
3	機械知能システム学専攻	青山 尚之 教授	5751
4	基盤理工学専攻	志賀 智一 准教授	5178
		松林 和幸 准教授	5436
大学院 高度 IT コース			
1	高度 IT プログラム	桐本 哲郎 教授	5175
全学インターンシップ総合窓口(インターンシップ推進室)			
キャリア教育部会 部会長		渡邊 昌良 教授	Tel 042-443-5778 Fax 042-443-5844 <a href="mailto:intern@crc.uec.ac.jp">intern@crc.uec.ac.jp</a> 場所: 東 3 号館 7 階 701 室
インターンシップ推進担当		糟谷 充子 特任教授	
		小林 哲 特任教授	
インターンシップ推進室事務担当		高橋 謙三 客員教授	
		三國 弘子	
産学官連携センター センター長		中嶋 信生 特任教授	

電通大インターンシップホームページ: <http://www.uec.ac.jp/career/career/internship.html>

企業・団体様からのインターンシップに関するお問い合わせなどはインターンシップ推進室でとりまとめています。お気軽にいつでもご連絡を下さい。今年度も引き続き電気通信大学のインターンシップをよろしくお願ひ申し上げます。

以上